

あ と が き

伝承は、人が人の想いを伴って継承されるものと考えています。同時に、伝え手と受け手との共同作業がなければ成り立ちません。そのためには、伝え手が「何を伝え」「何を継承してほしい」かを明確にしておくことが必要です。明確でないことは、受け手である後進者に戸惑いを生み出すことが少なくありません。戸惑いが増幅された結果として、後進の伝え手も受け手も自分たちの存立の意味を変化させ、本質が喪失されることさえ生まれてきます。本質が喪失されると、そこまでの経過も同時に見えなくなることになりがちです。おそらく、人は、兎角現実的で我田引水に陥りやすいものでもあります。それは、価値をどのように考えるかにつながることもあります。勿論、必要な変化を拒むものではありませんが、本質を見失って「現実としての価値が無いから」「役立たないから」といって変化させ、自分都合で過去を切り捨て新しいと自負することであれば愚かしいことではないでしょうか？

この教本は、必ずしも絶対のものではありません。ただ、上野門下にとっては、本質に立ち返って師上野徳太郎から受け継いだ想いと伝承を再認識する上で、欠かせない重要な道標です。

教本の作成に当たっては、やはり伝承の戸惑いも出てきました。再度伝承の意味と内容について、下記の教本作成委員で話し合いと検討を繰り返しました。おおよそ本質に立ち返った伝承となったことと思っています。

最後にもう一度、本質を失うことは、自らの本質を失うことです。

上野門下の継続と後進の発展を祈りつつ …

〔教本作成委員〕 笠原博子、嘉陽与南、小池志め子、晒野美紀、下村千賀子、
中原隆子、中森一郎、橋立幸子、茨田篤子、藤原 充、船井絹代、
細羽かほる、宮田ミチ子、山野井佳寿子 （五十音順）

発 行 2018年（平成30年）7月1日

編 集 向井流東京上野門下連絡会教本作成委員会

（代表） 山野井 佳寿子

印 刷 奥村印刷(株) 〒114-0005 東京都北区栄町1-1